

代表チームのキャンプ実施

代表チーム到着

2019年9月14日正午すぎ、ウォーレン・ガットランド監督、アラン・ウィン・ジョーンズ主将などウェールズ代表55名が本市に到着した。北九州空港には真っ赤なTシャツを着た市民やファン約500人が集まり、世界の強豪チームを出迎えた。チームが姿を見せると、市民は歓声をあげ、ウェールズ国旗を振って歓迎した。北九州エアターミナル、JAL、スターフライヤーと連携した歓迎セレモニー



を実施した。激励を受けたガットランド監督は、日本語で「アリガトウ」と応えていた。

記念撮影やサイン攻めにも、選手は笑顔で応じていた。

歓迎レセプション

同日夜には、リーガロイヤルホテル小倉において、代表選手やチーム関係者及び本市の産学官の関係者等が参加する市主催の歓迎レセプションを実施した。

北橋市長は、「ラグビーの伝統と誇りを持つ強豪を迎え、大変名誉に思う。公開練習では、多くの市民が精一杯応援する。」と挨拶した。

消防音楽隊の合奏のもと、日明・寿山小学校の子どもたちによるウェールズ国歌等の合唱を行ったほか、ハ

ンドベル演奏、記念品の交換、選手等による合唱などが披露された。ウェールズのPRに役立った市消防局には、「レッドドラゴン」の愛称が贈呈された。



レッドドラゴンの愛称贈呈



トレーニング

代表チームの練習は、スタジアムを中心に、原則として非公開で行われた。

練習は、午前と午後、各2時間ずつの二部制を基本とした。フォワードとバックスに分かれて、交互にフィールドとジムでの練習を行ったほか、実戦を想定した全体練習も行われた。

また、試合がナイターに行われることや、連日の残暑などを踏まえ、午後と夜の二部練習を行う日もあった。

ナイター設備が備わったスタジアムの強みが発揮された。

個人練習も行われた。居残りキッカーの選手がキックの練習を丹念に繰り返していた。これが試合での正確なキックにも寄与したことだろう。また、早朝にスタジアム内のジムを訪れ、自主トレーニングする選手もいた。

練習会場とホテル間の代表チームの移動は、非常に近いことから、基本的に徒歩であった。なお16日のみ、

公開練習を待つ市民がスタジアムからホテル周辺まで長蛇の列を作っていたため、選手の安全と混乱防止を考慮し、バスを使った。

本市でのトレーニングを通じ、初戦のジョージア戦に向け、フィジカル面、精神面の双方において、臨戦態勢が構築されていった。

公開練習

9月16日、スタジアムで代表チームの公開練習が行われた。会場周辺には11時から長蛇の列ができはじめ、開場時間(13時)には、最後尾が小倉駅に届くほどになっていた。



この様子を移動のバスから見た選手らは、驚きの声を上げた。ジョージ・ノース選手は、その光景をSNSで紹介し、「今日は公開練習の日。この行列を見てください。開始まで3時間もあるのに!」と投稿した。

予想以上の来場へ、練習開始の予定時刻(14時)になっても多くの観客がスタジアム内に入りきれなかった。「来た人みんなに見てもらいたい」と、代表チームは練習開始を待った。予定から遅れること45分、同スタジアム初の満員となる15,300人が集結し、そのタイミングを見はからって練習がスタートした。立ち見の観客も多く、赤いTシャツやタオルを身に着けたファンで、スタジアムは真っ赤に染まった。

選手が入場するまでの時間に、交流プログラム



のメンバーであるライアン・ジョーンズ氏が合図すると、観客席にウェーブが巻き起こった。

選手の入場に合わせ、観客は、ウェールズ国歌の大合唱で代表チームを歓迎した。多くの市民が日頃の歌の



練習成果を発揮し、スタジアムはウェールズ国歌で包み込まれた。選手は、グラウンドに入場すると、満員の観客と合唱に圧倒されつつも、拍手で応じていた。



練習で選手たちは、まずダッシュやボールの争奪といった基本動作を繰り返した。その後、自陣や敵陣ゴール前を想定した攻撃と防御の陣形を確認するなど、実践的な練習が行われた。選手たちは本番さながらの熱気で、気迫あふれるプレーを見せた。華麗なパスさばきやスピード感のあるプレー、力強いタックルが披露されるたびに、観客からどよめきがあがった。世界一流のプレーを生で体感できる貴重な機会となった。



練習終了後、アラン・ウィン・ジョーンズ主将が日本語で「アリガトウゴザイマス。」とお辞儀した。サインボールが選手から観覧席に投げ込まれたほか、観客との写真撮影やサイン等のファンサービスが行われた。選手に向けて子供たちがカロン・ランを歌うと、選手から笑顔がこぼれた。



選手からは、「公開練習は最高だった。あふれる観客で、試合会場にいたようだった。」「ウェールズの国旗や国歌で、まるで祖国にいたようだ。」といったコメントがあった。観客からは、「スピードに乗った当たりをしていた。練習してまねできるようになりたい。」「大きな選手が俊敏に動くのに驚いた。」「優勝してほしいという気持ちを込めて歌った。」などの声があった。

📣 チームウェルカムセレモニー

チームウェルカムセレモニーは、RWC2019の各出場チームにとり、来日後の最初に滞在した都市で行われる大会公式行事である。

ウェールズ代表のウェルカムセレモニーは、北九州国際会議場で開催された。関係者によるスピーチが行われたほか、選手一人ひとりに大会出場を記念するキャップやメダルが贈呈された。また、会場装飾として、



小倉祇園太鼓の山鉦を展示するとともに、余興として小倉祇園太鼓が披露された。

アラン・ウィン・ジョーンズ主将は、公開練習に多くの方が詰めかけたことへの感激を、「私たちは来るべき、素晴らしい場所に来たと感じた」と表し、「様々な大会で、世界のいろいろな場所を訪れているが、北九州市の歓迎は、どこでも経験したことがない圧倒的なものだった」と語った。



📣 小学校訪問

9月17日、代表選手3名(アラン・ウィン・ジョーンズ主将、ケン・オーウェンズ選手、コリー・ヒル選手)とコーチ1名(ロビン・マクブライド氏)の計4名が鞆ヶ谷小学校を訪れ、全校児童約180人と交流した。児童らは、

ラグビーボールを使ったレクリエーションなどで、ラグビーやウェールズに対する理解を深めた。

児童たちは手作りの金メダルを選手に渡して激励した。



📣 北九州市出発

9月19日、キャンプを終えたウェールズ代表チームは愛知県の豊田スタジアムで行われるRWC2019の初戦(9月23日、ジョージア戦)に向け、新幹線で出発した。JR小倉駅では、平日の日中にも関わらず、市民やファンら約100人がウェールズ国旗の小旗を振って見送った。選手たちも「ありがとう」と応じていた。



RWC 期間中の市民の応援

RWC 2019でのウェールズの活躍

RWC2019におけるウェールズは、プール戦を全勝の1位で通過し、トーナメントでは僅差で決勝進出を逃したものの、最終順位は4位という好成績となった。

プール戦

ウェールズ代表チームは、プールD組の初戦で、9月23日、ジョージアと対戦した。ウェールズが6トライを挙げて、43-14で快勝した。

9月29日には、オーストラリアと東京スタジアムで対戦した。ウェールズは、前半で15点リードするも、後半に1点差まで詰め寄せられたが、最後は29-25で振り切って2連勝とした。

10月9日に大分スポーツ公園総合競技場でフィジーと対戦した。ウェールズは、先制トライを許した上、逆転に次ぐ逆転でもつれる展開となったが、最後は29-17で勝利した。

10月13日、熊本県民総合運動公園陸上競技場でウルグアイと対戦した。前半はチャンスを逃すシーンが続いて苦戦したが、後半はペースを取り戻し、35-13と快勝した。

これでウェールズは、RWC1987年大会以来のプール戦4戦全勝とし、D組1位で決勝トーナメント進出を果たした。



決勝トーナメント

10月20日、ウェールズ対フランスの準々決勝が大分スポーツ公園総合競技場で行われた。ウェールズは、序盤からリードを許す苦しい展開となったが、フランスの反則・退場で流れを変え、終了間際に逆転し、20-19で勝利し、2大会ぶりのベスト4進出となった。

27日、ウェールズは自身初の決勝進出をかけた、横浜国際総合競技場で南アフリカ共和国と準決勝を戦った。ウェールズは、先制されてリードを許し、その後2度追いついたものの、終了間際にペナルティゴールを与え、16-19で惜敗した。

11月1日には東京スタジアムで、ニュージーランドとの3位決定戦が行われた。ウェールズは、ニュージーランドの猛攻を受けつつ、粘りも見せたが、17-40で敗れた。

個人成績

RWC2019の個人成績ランキングでは、ウェールズのジョシュ・アダム選手がトライ王に輝き、タックル数でもアラン・ウィン・ジョーンズ主将がトップの79回を記録した。ダン・ピガー選手も、ドロップゴール数で1位、コンバージョンゴール数で4位となるなど、ウェールズ代表選手の活躍は大会を大いに盛り上げた。



パブリックビューイングと応援バスツアー

市民と一緒にRWC2019を盛り上げ、ウェールズ代表を応援するため、パブリックビューイングと市民応援団の派遣を行った。

プールD組の対フィジー戦では、市立水環境館でパブリックビューイングを行い、250名の市民がウェールズ代表チームに熱い声援を送った。東京パラリンピック出場が決まり市内で合宿中の英国車いすラグビーチームや、フィジーからの研修生も観戦した。

また、熊本市で行われた対ウルグアイ戦には、北橋市長を含む市民応援団100名を派遣する応援バスツアーを実施した。

準決勝の南アフリカ共和国戦では、市立水環境館で

パブリック・ビューイングを行い、350名の市民が観戦した。

3位決定戦のニュージーランド戦では、西日本総合展示場本館中展示場に会場を移し、約1,200人の市民が応援に駆け付けた。



大会期間中の様々な交流

ウェールズ首席大臣等の本市訪問

WRUとの交流プログラム及びウェールズ代表によるキャンプの実施を受け、RWC2019の視察のため来日中の、マーク・ドレイクフォード首席大臣(首相)が2019年9月28日に本市を訪問した。公開練習での歓迎ぶりや徹底した都市装飾に、首席大臣が興味を持ったことがきっかけとなり、この訪問が実現した。

首席大臣は、北橋市長、村上市議会議長を表敬訪問した。北橋市長は、「チームを迎えた公開練習では1万5千人の市民と一緒に胸を躍らせた。首席大臣の訪問をきっかけに、ラグビー、文化、教育の分野などでウェールズとの交流の輪が広がることを期待する」と挨拶した。首席大臣は、「ウェールズ代表への温かい歓迎をうれしく思う。ウェールズの人で北九州を知らないものはいない。」と語り、北橋市長同様、友好関係の継続を要望した。

表敬訪問に続き、小倉城周辺の視察や、JR小倉駅周辺の都市装飾の視察を行った。

この日の夜、首席大臣等ウェールズ一行を歓迎する夕食会が開催された。ウェールズ最大の青少年団体「Urdd Gobaith Cymru(以下、「イールド」)」CEOのサイアン・ルイス氏やウェールズの文化機関「ウェールズ・アーツ・インターナショナル」代表のエルネド・ハフ氏といった各界トップも出席した。首席大臣から「ラグビー交流を成功モデルとして、経済、文化、青少年などの分野での交流につなげていきたい」との意向が示され、本市とウェールズの交流を広げていくことを確認した。



ロイヤル・ハーピストの本市訪問



ウェールズ政府やウェールズ・アーツ・インターナショナルの協力により、10月25日、「ロイヤル・ハーピスト」のアリス・ヒューズ氏が本市を訪問した。

ロイヤル・ハーピストは、プリンス・オブ・ウェールズ(英国のチャールズ皇太子)から任命された英国王室公認のハープ奏者である。ウェールズは男声合唱が盛んなことで知られているが、ハープもウェールズを象徴する伝統楽器の一つとなっている。

ヒューズ氏は、日明小学校を訪問し、ハープ演奏を披露した。児童(約500人)からウェールズ国歌の合唱もあり、音楽を通じた交流が行われた。

市長表敬訪問の後、小倉井筒屋新館でハープ演奏会を開催し、市民約300人が演奏に聞き入った。



ウェールズドーム

ウェールズドームは、観光、グルメ、文化などウェールズのPRを目的に、ビジット・ウェールズ(ウェールズ政府の観光部門)がRWC2019と時期を合わせて、東京・代々木に設置した巨大テント式のドームである。

9月30日、同国日本事務所との協議を兼ね、ドームを視察した。ドーム内は、360度のスクリーンとなっ

ており、美しい映像と音楽でウェールズの魅力が発信されていた。東京都心の商業地域に設置されて連日の盛況となり、その中で、WRU、代表チームと本市の交流の様子がビデオで紹介され、本市の取組みもPRできた。

